

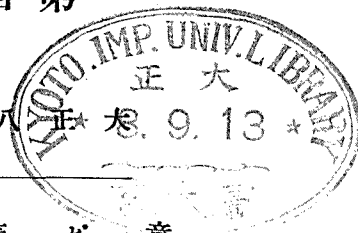
大正五年四月六日第三種郵便物認可 大正八年八月二十七日印刷納本（毎月一回一日發行）

哲學研究

第四卷 第九册

第十四號

八年九月一日發行



意識の明暗に就いて……………文學博士 西田幾多郎

ピアニストの仕事……………文學士 兼 常清 佐

董仲舒學說一斑……………文學士 浦川 源 吾

民主的生活の基礎としての米國小學……………

教育の發達大觀……………文學博士 小 西 重 直

フィヒテの道德學に就ての考察(承前)……………

……………文學士 世 良 壽 男

新著紹介……………

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會



京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年貳圓八拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	波多野精一
文學博士	西田幾多郎
文學博士	朝永三十郎
文學士	千葉胤成
文學博士	狩野直喜
文學博士	米田庄太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學士	植田壽藏
文學博士	野上俊夫
文學博士	松本文三郎
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	小西重直
寶嚴方治	

書記

會 告

近時紙價益々昂騰致し之に加へて印刷製本費又共に増額致候結果東京雜誌組合に於ても一般雜誌代價値上げの事に決議致候に就ては再度の義にて誠に不本意の次第ながら來る十月以降當分の中本誌定價並に會員會費左の通り相定め候間左様御諒承被成下度此段廣告仕候也

定價 一 冊 金 參 拾 錢 送料金壹錢

會費 半年分(前金) 金壹圓七拾錢

但し九月十日以前に拂込まれたる向は十月以後の分と雖從前の規定に據ることに致候

大正八年九月一日

京都哲學會

文藝の創作といふ働きがそふいものであると同時に、又其鑑賞といふ事も甚だ興味ある精神作用である。普通、創作は作家の自由なる想像力の發現であり、かくして出來上つた作品を了解するには人間の悟性の努力を俟つて初めて出來るものと考へられて居る。然し元來、創作と理解とは、見方によつては、同じ種類の働きであるとも云へる。我々は藝術家の心象の活動をば我々の精神に於て繰り返して體驗することなしには、到底其作品を充分に理解する事は六かしい。即ち我々自身が作家の型に従つて創作をして行くといふ事である。此點に於て吾人は「現代英文學講話」の著者の勞を甚だ多とせねばならぬ。勿論其序文に於て著者が宜言して居るやうに、英文學研究者のために手引となるといふのが本書の主なる目的であらうが、我々は更に著者が或はコントラツドの紹介に南海の濤の蓋りを忍ばせ、或はキツブリングの話にエキゾテックな東洋的情調を味はせ、又は現代劇にあらはれた女性の研究に、現代人の心理状態を解剖して、その提示する色々の問題について、考へざるを得ざらしむる點に於て、本書は我々がさきに述べた趣旨をば、具體的に最もよく實現したものと云ふ事か出來る。我々は文學批評家としての著者の蘊蓄と手腕とを認めなければならぬ。これ吾人が茲に本誌を通じて此一巻をば、斯學の研究者はもとより廣く世の讀書子に推舉する所以である。

緒論、第一講現代美文研究、第二講現代詩人に就いて、第三講現代小説と如實描寫、第四講經驗に基ける現代小説、第五講短篇小説とその作家、第六講現代劇の物興、第七講新浪漫的戯曲、第八講現代劇と其問題、第九講現代劇に見えたる犯罪、第十講チヨ

新著紹介

ン、ゴルズワージーとバーナード、シヨツ、附録 現代劇に見えたる女性研究、婦人問題とチニソンの詩、文藝と現代思潮、東京廻町富士見町研究社發行。壹圓七拾錢。(膝部謙造)

寄贈書籍雜誌

民本主義と國民教育 橋本文壽著 東京寶文館
心理研究、東亞之光、無盡燈、學校教育、内外教育評論、國民教育、小學研究、教育學術界、教育研究、教育時論、東京教育、近江教育、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育、佐賀教育、長崎縣教育雜誌、宮城教育、哲々雜誌、丁酉倫理講演集、六條學報、早稻田文學、文化運河、奈良縣教育、信濃教育、都市教育、愛媛教育、

正誤

識別作用の非相稱性に關する實驗的研究

號	頁	行	誤	正
二七	三二	三	3.	6.
同	三六	一三	盾に	盾法に
同	三八	五	Vol	Vol.
同	同	七	22	22
同	同	九	16	123
同	同	一六	1000	1000
同	一〇四	同	0.50 1.50 1.00 0.50 0.50 1.00	
同	同	一八	0.89	1.89
同	同	二〇	1.00	1.10

四〇	五七	一五	無意識的	無意識的	同	同	六	二方面	二方面
同	六五	一三	リップス	リップス	同	同	七四	一〇	武士道
同	六七	一〇	せざるが如く	せるが如く	同	同	七六	八	外はらぬ
同	六八	九	(四)	略す	同	同	七七	三	Inquiries
同	六九	四	二方面又は三方面	二方向又は三方向	同	同	八	稍々	Inquiries
									稍々

前 目 次

デカートの「規則論に於ける「直覺」」	文學博士	朝永三十郎
感覺の強度に關する疑義	文學士	橋崎淺太郎
フィンセント・ファン・ホッフ	文學士	植田壽藏
フィヒテの道徳學に就ての考察	文學士	世良壽男
彙報——新刊紹介		

會

告

一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居セラレタル節ハ直チニ其旨御報知被下度候

一、會費ハ振替口座大阪麥〇六六參番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・交換雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會
 振替口座大阪麥〇六六參番

定價

廣告料

一頁 金拾圓 半頁 金六圓

冊數	定價	價	郵	稅
一冊	金貳拾五錢	金	壹	錢
六冊(前金)	金壹圓五拾錢	不	申	受
十二冊(前金)	金參圓	不	申	受

註文規

- 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は寶文館へ御申込下され度候
- 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- 振替貯金にて御送金は(東京二八〇番)寶文館宛に願上候
- 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- 見本御入用の場合は金貳拾錢御送り下され度候
- 特に請求書及領收書を要する場合は郵券三錢御送付下され度候

大正八年 八月二十七日印刷納本
 大正八年 九月 一日發行

第四十二號 第四卷 第九册

京都帝國大學文學部内

編輯者

京都哲學會

右代表者

寶嚴 方治

發行者

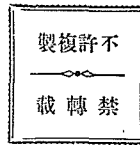
大葉 久吉

印刷者

青柳 十一郎

印刷所

秀英舍第一工場



發行所

東京日本橋區本石町三丁目
 (振替口座東京二八〇番)

寶文館

發賣元

東京市日本橋區本石町三丁目
 大阪市東區淡路町四丁目

寶文館

賣捌所

- (東京) 東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、上田屋
- (大阪) 盛文館
- (京都) 寶文館
- (神戸) 寶文館

◀ 著名の讀必下刻 ▶

廣島高等師範學校教授 文學士 高田保馬著

最新刊

社會學的研究

布裝全壹册
定價金貳圓
送料金二十錢

著者、社會學の研鑽に従事せらるゝこと既に十年、常に斯學の純理に没頭して、其發達の趨勢に後れざらんと努力せられたり。

本書は其間に成れる苦心の勞作十二章を收む。冷靜氷の如き理論に包むに、人類の愛、詩的情熱を以てする所、一卷の特色にして、又充分に著者の學風を味ふに足るべし。

特に又大戰の終結と共に、世界に於ける社會組織の變革將に近からんとす、此時勢の必要に應じて、社會の根本的性質を明かにし、社會的思潮の眞髓を味はむとする人士にとりては、最も有益なる大文字なり。

本書の要目

- 一 社會進化論の性質
- 二 社會法則の性質
- 三 統計的方法と歸納法
- 四 生死減少逆行の法則
- 五 貧富と出生率
- 六 分離論

- 七 社會的定量的法則
- 八 分業について
- 九 家族の將來と社會の團結
- 十 資本家的集積說の研究
- 十一 優生學是非
- 十二 現代文明の迷妄—生産政策の否定

東京市本區橋本町 寶文館 振替 大坂市東區淡路町 振替 大阪市東區四番 振替 大坂市東區三番 振替